

学位論文内容の要旨

学位申請者	塩野谷 祐子 【比較社会文化学専攻 平成27年度生】	要 旨
論文題目	幼児と母親の身体活動に関する研究 ―母子一緒にの活動を中心に―	幼児の体力向上には日常生活での身体活動量が影響している。近年、子どものスポーツや外遊びに不可欠なものとして、時間、空間、仲間が挙げられるが、この3つに加えて周囲の大人の「手間」が重要と考えられ、その1つに母子一緒に体を動かすことがあげられる。また母子一緒にの活動は、幼児だけでなく、母親自らの健康保持・増進に寄与する可能性がある。そこで本研究では、身体活動を母子一緒に実施することに注目し、そのことが幼児の体力・身体活動、および母親の身体活動・健康度にどのような影響を与えるのかを検討することを目的とする。本研究は2つの研究で主に構成された。第一に、母子一緒にの運動実施が幼児の体力と母親の主観的健康に及ぼす影響について検討した。その結果、母子一緒にの運動頻度が多い母親は、女兒では走能力といった体力との関連が見られたが、男児では見られなかった。また母親の健康は、休日の男児と一緒にの活動、および平日の女兒と一緒にの活動頻度が多いと、母親のストレス得点が低いという結果を得た。第二に、3軸加速度センサ搭載の活動量計を用いて定量的に身体活動量を計測すると共に、質問紙調査により母親の健康度を調査したところ、重回帰分析の結果から、母子一緒にの身体活動時間が休日の母親の中高強度身体活動の説明変数となり、子どもの中高強度身体活動に関しては、母親の労働時間が平日・休日ともに有意な説明変数となった。結論として、母子一緒にの身体活動は、女兒の母親および女兒の身体活動に影響を及ぼし、体力向上に資する要因となる可能性が示された。一方男児では、母子一緒にの活動を2群に分け比較したところ、男児およびその母親の歩数・MVPAおよび男児の体力に差がみられなかったことから、母子の身体活動量および体力の関係性に男女差がみられた。結論として、母子一緒にの身体活動は、女兒の母親および女兒の身体活動に影響を及ぼし、体力向上に資する要因となる可能性が示された。また母子一緒にの活動が、幼児に加え、母親の健康保持・増進に寄与する活動となる可能性が示された。
審査委員	(主査) 教授 水村 真由美	
	教授 新名 謙二	
	准教授 青木 紀久代	
	教授 小玉 亮子	
	教授 浜口 順子	